

今後も、地域のまちづくりについて、区内の多様な意見の調整、取りまとめを行い、地域の声を行政に届けていきます。



現在の西蒲区役所庁舎は老朽化が進んでおり、バリアフリーへの配慮が十分でなく、超高齢社会の対応に課題があります。区役所庁舎の整備に関しては、政令市移行後、区自治協議会をはじめとして、区内の関係方面で多くの議論が行われ、西蒲区にとって最も良い形となるよう調整、検討が続けられてきました。昨年二月の西蒲区役所庁舎整備勉強会においては、地域代表、区選出市議会議員、区役所の三者で検討がなされ、最終的に現在地での整備という意見でまとめられました。

区役所新庁舎の早期整備を市長へ要望

西蒲区自治協議会長 長井 正雄



西蒲区自治協議会通信

題字 小林 真由美

[第9号]

平成30年10月15日発行

発行 西蒲区自治協議会

編集 西蒲区自治協議会広報部

事務局 西蒲区役所地域総務課

〒953-8666 西蒲区巻甲2690番地1

TEL 0256-72-8143

FAX 0256-72-46022

E-mail chikisomunsk@city.niigata.lg.jp



「まち歩き」を行ってみると、そこに暮らす市民にとっては自分の暮らしの魅力を再発見することがあります。今年度から「西蒲区まち歩きガイド養成講座」を行っています。これは、西蒲区の魅力を区内外に発信することで交流人口を増やし、地域の活性化に繋げていこうとするものです。中之口地区と角田地区の二か所で六月から講座を開始し、区内外の約四十人の受講者が十月にガイドとしてデビューするため日々研鑽を積んでいます。

地域の暮らしを楽しむ「まち歩き」



となり、観光客にとっては知らない文化に触れて新鮮な興味を覚えることとなります。その結果、市民は自分の住んでいる地域がより一層好きになり、観光客もその地域の文化に惚れて繰り返し訪れるようになり、それが生まれ、それにより、まちが磨かれ、より一層魅力的になります。「まち歩き」は人生における一期一会のめぐり合いの日々体験する喜びと言っても過言ではありませぬ。ぜひ、皆さんもまち歩きに参加して、西蒲区の魅力を再発見してみませんか。

西蒲区の魅力発信

恋する灯台に認定!



西蒲区角田浜の角田岬灯台が、「恋する灯台プロジェクト」により認定されました。七月には、セレモニーが催され、日本ロマンチスト協会長から市長へ認定証の授与がありました。そんな話題沸騰中の角田浜で自治会長をされている阿部さんに自治協委員がお話を伺ってきました。

角田浜、いいところだな

角田には、山あり海あり、岬灯台と魅力がたくさんあります。このたび、岬灯台が日本ロマンチスト協会から「恋する灯台」に認定され、知名度アップに繋がりました。また、角田山が一望できる畑地帯にはワイナリー、日帰り温泉等が建ち並び、観光客で年中賑わいを見せています。昨年の七月末、念願でありました共有地の自治会名義への移転登記を済ませました。移転完了を機に、臨時総会を開き、活用方法を話し合い、計画を立てました。

二年前から、県の補助金を受けながら、保安林の育樹、健康増進、不法投棄の禁止を三本柱に掲げ、保安林内の整備に取り組みました。同時に「角田トレイル」と名付け、健康増進に役立つよう、自転車やウォーキングのコースを作り、大会を開催するまでに至りました。この事業は、自転車愛好家の皆さまが率先して自治会に申し入れて実現しました。ボランティアの輪が次第に大きくなり、感謝に堪えません。だから私も愛される「ロマンチック・恋する灯台IN角田浜」を目指したいと思っています。



●ホットコーナー

◆ショイチちゃん
小さな親切ありがとう
バンコクへ行ってきました。ガイドさんの案内で名所や旧跡を観てきました。グループの皆さんからはくれなように、そして、ひとつで見落とさないように、一生懸命歩いて歩きました。常に素足で草履履きの私が、「痛い」と異変を感じたときには靴擦れで赤く腫れ上がっていました。ピリピリと痛い、しかし、絆創膏はバッグの中です。保護するためにティッシュペーパーを折りたたんで靴の中に入れておいた女性がいまして、「ありがとう」と受け取りました。足の痛さと皆に遅れないようにと思う私に、その女性の姿がよく目に入りませんでした。同じグループの女性であることに間違いはないのですが、バスの中で、誰へともなく、絆創膏をありがとうございましたと言った頭を下げました。感謝の気持ちでいっぱいでした。楽しい旅行をありがとう。

募集します

◆「ホットコーナー」と皆さまの声
◆詩、川柳、お子さまやペットの写真など、自分が「ホット」するものを、タイトルや一言コメントを添えて投稿してください。◆また、地域に関する課題などで、区自治協議会と協議してもらいたいことがありましたらご意見をお寄せください。◆いずれも事務局(広報紙第一面に掲載)まで、住所・氏名(ペンネームがあればペンネーム掲載)連絡先をお書き添えの上、郵送または電子メールでお送りください。

編集後記

「じききょう」第9号は、区役所新庁舎整備の要望や人口減少対策に係る提案に関する記事を掲載しました。どちらも区民の皆さまの生活向上を図る取り組みです。今後とも、読んでいただける広報紙を目指してまいります。

西蒲区自治協議会の部会活動 平成30年度はこんな活動をします/しました

総務部会

子どもたちの発想を通じた魅力発信を再び



総務部会では、西蒲区の豊かな自然をより一層区内外に発信するため、昨年度に引き続き、角田地区コミュニティ協議会主催の「海上すもう大会」と協働し、7月21日に第2回目の開催となる「角田岬灯台からの流しソーメン」を実施しました。

今年度における実施では、区内の子どもたちが発案した当イベントが区の夏の風物詩になるよう思いを込めて、ボランティアスタッフを募り、共に運営にあたりました。区内外から想定を上回る330人の参加があり、上記イベントのほか、恋する灯台認定セレモニー、灯台一般公開も開催され、区が誇る自然の魅力を来場者に身体で感じていただいたことで、効果的にPRできました。

保健福祉部会

認知症予防に関する正しい知識を

保健福祉部会では、全国的に増加傾向にある認知症に関する正しい知識を学ぶことや、その予防への関心を高めるため、医学博士である加藤俊徳さんを講師に迎えて講演会を開催しました。(詳細は次号で特集します)

そのほか、行政と協働し、「にしかんオレンジの輪」と称して、認知症サポーター養成講座受講者のネットワークづくりに取り組んでいます。



▲講演会開催に向けた長岡市への視察

まちづくり・産業部会

区内の「まち」をPR

★西蒲区まち歩きガイド養成講座

★いきいきコミュニティ事業「華のあるまち花のある暮らし推進事業(巻地区「花祭り」プロジェクト)」

当協議会で採択したこの事業では、住民参加のもと、講習会を通じて「花祭り(ハンギングバスケットによる花の寄せ植え)」を制作しています。まちなかの街路灯に設置し、水やりなどの日々の管理も地域住民が行っています。地域ぐるみで取り組むことにより、絆を深める一助となっています。



7/26

区教育ミーティング

テーマ平成30年度教育委員会の施策について

地域とのさらなる連携を目指して

参加者は、教育長、教育委員、公民館長、図書館長、教育行政担当者、西蒲区役所担当者の一三名と、自治協委員二六名の、全員で三九名でした。

教育環境を取り巻く課題は多岐にわたり難題も多いですが、意見交換は活発に行われました。自治協委員の意見・質問と、その応答でまとめました。

自治協委員からの主な意見・質問

- ・教育の基本は確かな学力と豊かな心を育てることだと思ふ。地域にそのビジョンをどう訴えるかが重要。
- ・児童、生徒の挨拶は場面で弱くなる。大切なことなので、保護者世代にも習慣づけの協力を仰ぐ。
- ・教職員の多忙化解消は急務である。教材研究、保護者との相談対応、部活動指導など守備範囲が広い。
- ・ネットでの誹謗中傷、いじめ対策は取られているか。教科になった「道徳」はどのように評価するか。
- ・「地域スポーツクラブ」導入の計画があるので、学校部活動のガイドラインについて聴かせて欲しい。
- ・「見守りのあり方」の話で、監視カメラの導入と防犯灯の充実が出た。自治会の予算では厳しい。



教育委員、教育行政担当者からの主な応答

保護者との教育相談をはじめ、教員が多忙化を極める場合は「スクロロイヤール」制度の活用も必要。「ネットいじめ」は見つけにくい。対策としては、警察、ネット会社などを含めた講習会を計画する。

4/23

人口減少対策に係るまちづくり提案

「道徳」教科は、文章表現で個人評価をしている。

部活動ガイドラインは四月一日より施行。「部活動指導員」「合同チーム」の導入などまだ研究の余地がある。

監視カメラなどいろいろな、地域の見守りで「開かれた学校」が理想。議論が不十分なところは次回で、以上、巻地区公民館で、予定時間を超える熱心な第一回西蒲区教育ミーティングでした。

第一回区自治協議会にて、提案書を会長から区長へ手渡し、西蒲区の現在・未来の特徴を活かした雇用の場の創出、西蒲区らしい生活の実現に向けた定住の場の創出、西蒲区の多様な観光・文化を活かした交流人口の創出を提言しました。

この提案書は、平成二九年度に保健福祉部会が多面的な視点から人口減少の原因調査を行い、課題解決に繋げていく目的で作成しました。

提言の内容を活かした人口減少抑制の取り組みに期待します。



にしかんオレンジの輪

地域との支え合いの強化に向けて

「にしかんオレンジの輪」とは、「認知症サポーター(※養成講座を受講し、オレンジリングを受け取った方からメルアドリングを登録していただき、次の情報を提供しようと、行政と協働で立ち上げたものです)。

参加いただいた方には、各種講演会や講座の案内をはじめ、認知症関連情報をメール配信します。養成講座受講後もサポーターとしての継続的な学習や、自主的な活動を促したいと考えています。

今後、認知症の方への適切な対応や、徘徊高齢者の捜索など、見守りネットワークとしての活用も視野に入れ、PR活動を行っています。



▲オレンジリング



▲認知症サポーター養成講座

※認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を自分のできる範囲でサポートしていただく方です。

